

【伊達市の概要】

平成18年1月1日に伊達町、梁川町、保原町、霊山町、月舘町の5町が新設合併して発足しました。

■位置・地理

福島県の北部に位置し、県庁所在地・福島市の北東に隣接するまちで、東に阿武隈山系の霊山、西には吾妻連峰、北方には宮城県境の山々が遠望できる福島盆地の中にあります。

市役所本庁舎がある保原は海拔約50メートルの所に位置し、市の西部を阿武隈川が流れ、市の中心部周辺は平坦地となっており砂質壤土で耕地に適しています。市の南部及び東部には南北に500メートルから800メートル程の阿武隈高地が連なっています。

■交通体系

市の西部には国道4号とJR東北本線が南北に走り、市の南部には国道115号が東西方向に、市の中心部を国道349号、国道399号が走っています。福島市と宮城県柴田町を結ぶ阿武隈急行の鉄道が、市の中心部を南西から北東方向に走っています。

また、東日本大震災からの復興の要として「相馬福島道路」（東北中央道）の開通が、平成32（2020）年度に予定されています。

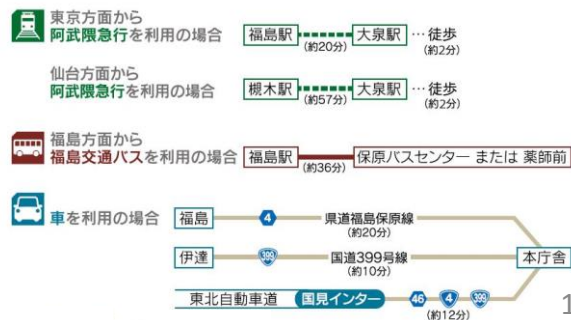
■土地利用

全体の面積265.1平方キロメートルの内、森林が101.782平方キロメートルで38.4パーセントを占め一番広く、次に農地の70.607平方キロメートルで26.6パーセントとなっており、伊達市全体の65パーセントを森林と農地で占めています。



●位置（市役所本庁舎）
北緯 37 度 49 分
東経 140 度 33 分

ACCESS



【地域の状況と課題】

- 伊達政宗で知られる伊達氏発祥の地、養蚕の歴史、桃をはじめとする果物、干し柿の一種「あんぽ柿」の一大産地で製法発祥の地、紅葉の名所で南北朝時代の城跡遺構が残る国指定史跡及び名勝「霊山」など、他に誇れる地域資源があるが、全国的な知名度・認知度は低いため、より効果的な情報発信を行っていく必要がある。
- 東日本大震災からの復興の要として「相馬福島道路」（東北中央道）の開通が予定されており、2018年に「道の駅伊達の郷りょうぜん」がオープンするなど、本市が飛躍する環境が整いつつある。
- 全国的に人口減少や少子高齢化が進む中で、本市の地域力向上のために交流人口、関係人口をいかに拡大するかが重要となっている。
- 地域の魅力の再発見や新たな地域資源の掘り起こし等の活動への参加により、シビックプライドが醸成、市民自らが発信者となるサイクル形成が必要。



中世伊達氏の本拠地 梁川城本丸跡



国指定史跡・名勝「霊山」



奥州蚕種本場とも称された伊達地方の養蚕業（蘭玉作品）



道の駅「伊達の郷りょうぜん」



全国でもトップクラスの生産量を誇る「桃」



伊達市の冬を彩る「あんぽ柿」

【求める企業人】

- 導入事業分野 シティプロモーション
- 導入予定年度 平成31（2019）年度から
- 希望する派遣期間 2年間（最長3年間）
- 希望する年齢等 30代～40代

【事業展開】

- 新たな地域資源の掘り起こしとシビックプライドの醸成
 - 市民との新たな魅力を掘り起こす活動
 - 市民が活動へ参加を通じて、興味をもち、自ら発信者となるサイクルの形成
- 市の魅力やブランドメッセージの効果的な訴求、発信
 - 外部視点で本市の魅力を再発見
 - 観光資源や特産品等のブラッシュアップ、広域需要の開拓支援（PR、販路拡大）など

【業務内容】

- 各メディア、SNSを活用した戦略的な情報発信等
- 市内外の人からの共感を獲得できるようなブランドメッセージの作成
- 地域活性化に関わる市内外の人を増やす仕組みづくり
- 地域住民との協働、農業者や商工業者との連携による既存の地域資源の価値・魅力の向上、地域特性を生かした新たな地域資源の掘り起こし、シビックプライドの醸成
- 観光資源や特産品等のブラッシュアップ、広域需要の開拓支援（PR、販路拡大）

【事務担当者・連絡先】

総務部秘書広報課 広報広聴係 岡崎
電話：024-575-1113／FAX：024-575-2570
E-mail：press@city.fukushima-date.lg.jp
市HP：https://www.city.fukushima-date.lg.jp/